

『源氏物語』の心を読む

～柏木の巻～

開講計画

全12回／各90分

回	日付	曜日	10:30～12:00
1	9/4	水	柏木、悶々と思う
2	9/18	水	柏木、女三の宮に手紙を書く
3	10/2	水	女三の宮、返事を書く
4	10/16	水	女三の宮、男児を出産する
5	11/6	水	女三の宮、出家する
6	11/20	水	柏木、重態になる
7	12/4	水	柏木の友人・夕霧、見舞する
8	12/18	水	柏木、妻の落葉の宮を夕霧に託して、死去する
9	1/15	水	源氏、若宮の五十日を祝い、うめく
10	1/29	水	源氏、柏木の死を哀れむ
11	2/12	水	夕霧、一条の宮を弔問する
12	2/26	水	重ねて、夕霧の弔問はつづく

受講料

20,000円(教材費別)

定員

35名

あはれの文学『源氏物語』を読み、 人間の宿業(すくごう)を噛(か)みしめましょう

柏木は、親より先に死ぬという親不孝の罪を背負い、女三の宮に、「あはれ」とだけでも仰せ下さいと頼みます。頼まれても、女三の宮は、「あはれ」の一言は拒否し、抗議の返書だけを書きます。柏木に生きる道はありません。痩せ細って白く、気品のある柏木は、友人の夕霧に、それとなく告白し、源氏との関係と、自分の死後を頼み、泡の消えるように逝去します。源氏は、産まれてきた男児を抱き、「汝が爺(ぢち)に似てはなるまいぞ」と自嘲します。女三の宮は出家し、ことの真相を思い、夕霧は、一条の宮邸へ赴き、柏木の未亡人・落葉の宮に会います。

講師

本学名誉教授

うめのこ
梅野 きみ子

テキスト・教材

初回、教室にてテキストを販売します。
お持ちでない方は、講座申込み時に注文してください。
テキスト以外に、他の本の持ち込みも可能です。

- ①宮内庁書陵部蔵青表紙本『源氏物語 柏木』
編者 桜井祐三 新典社 1,320円(税込)
- ②仮名変体集
編者 伊地知鐵男 新典社 385円(税込)
※①は必須、②は任意 ※2024年1月現在